

藤塚小だより

学校教育目標：生きる力にあふれる子

～「自分らしさを発揮する力」の育成を目指して～

令和4年 8月29日
横浜市立藤塚小学校
学校だより 9月号
TEL (351) 2314
FAX (351) 7349

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fujizuka/>

夏休みの作品



校長 藤田 陽子

暑い日々が続いた今年の夏休みが終了しました。学校に児童の元気な声が響き、生き生きとした表情が戻ってきました。

登校時に、子どもたちが大切そうに抱えていたのは、夏休みの間に児童が一生懸命取り組んだ図工や家庭科などの作品、自由研究などです。作品は、各教室で互に見合うことができるよう展示されます。児童の作品が展示されると、児童が考えたことや取り組んでいる姿が伝わってくるような独特の空間が生まれます。夏休みの作品ならではのダイナミックな表現や自由な発想、意外性が感じられる空間が現れ、そこから作品のおしゃべりが聞こえてくる、そんな楽しさが生まれます。

毎年、夏休みの作品を鑑賞して感じるのは、「その児童らしさが作品に表れている。」ということです。例えば、取り組む内容がその児童の大好きなものであるということが多く見られます。動物や昆虫、草花、海や宇宙、宝石や鉱物、歴史や食べ物など、同じテーマに毎年取り組み、研究を重ねる取組も見られます。それらを見ると『〇〇さんが興味をもっているテーマ』として、その児童の関心や意欲が強く心に残ります。

また、取り組み方に「その児童らしさ」を感じる作品もあります。同じ内容や課題であっても、調べ方やそのまとめ方、表し方がそれぞれの児童では全く違う場合があり、「自分は、このように考えているよ。表したいよ。」という児童の考えが伝わってきます。

出来上がった作品を前に、児童はとても誇らしそうに笑顔を見せてくれますが、完成までにテーマを選ぶことや調べ方・作り方・まとめ方の表現を工夫することなど、いくつも自分で決定しなければならないことがあったはずです。そのように自分で道筋を決めて取り組んだ内容だからこそ、その児童らしさがそのテーマや表現に表れ、作者本人も、見る側も強い印象を受けるのだと思います。夏休み明けのこの時期に、一生懸命取り組んだ互いの作品や取組をじっくりと鑑賞し、それぞれの「児童らしさ」やその取組の良さを味わう時間を大切にしていきたいと思います。

藤塚小学校 272 人はこの夏休みに何を見、どんなことを考えていたのか、そしてどんな思いを胸に登校していることか、これからの作品鑑賞を通じて想像するとともに、しっかりと児童を見つめ、その思いを受け取っていきたいと思います。